

第2章 都市づくりの目標

1 将来都市像

三笠市都市計画マスタープランは、「第8次三笠市総合計画」で定めた『誰もが暮らしてみたい田園産業都市』『日本一安心して誰もが住み続けたいまち』を将来都市像とし、この都市像を実現するうえでの都市計画部門を担います。

2 目標年度と人口

(1) 目標年度

三笠市都市計画マスタープランは、長期的な視点にたった都市づくり計画であることから20年後の西暦2028年度を目標年度とします。

(2) 目標人口

将来の社会動向は不透明な状態にあり、将来展望はむずかしいですが、国立社会保障・人口問題研究所の人口推計値では令和12年度で5,502人となっていますが、三笠市人口ビジョンにより6,674人の水準を維持することを目標とします。

3 市街地規模

将来の人口規模に見合うよう、各地域それぞれの特性に配慮しながら、集落の集約化を図りつつ、地域が自立し、持続していける地域構造を構築し、まとまりのある市街地形成をめざします。

4 市民の声

本マスタープランの策定にあたり、タウンウォッチングやワークショップで得られた市民の声を整理します。

○施設

- ・ 空き施設の有効活用(転用含む)
- ・ 公共施設の集約と効率的運営(用途別、中心部活性化)
- ・ 宿泊施設の整備
- ・ 新たな道の駅施設の整備(道道岩見沢三笠線の交通量の増加)
- ・ 既存公共施設のスクラップ&ビルド政策(残す物と捨てる物)
- ・ 市街地にゆとりを持たせて、利便性を高める
- ・ ぼんべつダムの有効活用
- ・ 官主導の公共施設整備から、民間の意見を取り入れたものとする工夫が必要

○定住・産業

- ・ 働き盛りの人が定住できる生活環境の整備

- 公営住宅・単身者向けアパート等若者定住対策住宅の整備
- 市有地の無償提供
- 子育て支援
- 進出企業向けアパートの充実(従業員定住対策)
- 都市部の年金生活者をターゲットにした定住化策（U， I， Jターン、雪処理問題）
- 新規就農者への支援(特区の活用等)
- 魅力ある新産業による雇用創出(ワイン工場、高齢化を見込んだシルバー産業等)
- 次代を担う子供たちに三笠を好きになってもらう取組
- 一次から三次までをリンクさせた新しい産業形態の導入の取組(生産から販売まで、ITの活用、多角的な業種等)
- 現有企業の支援
- おいしい水やすんだ空気などを利用した産業・観光おこし

○くらし、環境

- 公営住宅入居の規制緩和と設備の充実(家賃、入居条件等)
- 公営住宅の集約化(中心部)
- 住み慣れたところを離れても、近所付き合いの確保
- 民間所有空き地、空家の有効利用
- 特色ある教育の実践(小中一貫、地域科授業等)
- 密集公営住宅団地の間引き解体による余裕の確保(雪処理、榊・宮本町)
- 住民にとって、将来にわたり安全・安心・ゆったり暮らせるまちづくり
- 市外、海外に及び交流人口の拡大(修学旅行、ホームステイ)

○福祉

- 高齢者の人材活用(生きがい)
- ITを活用した医療、救急対応システムづくり
- 高齢者話し相手ボランティア
- 都市施設のバリアフリー化
- 除雪、買い物等の支援
- 子育て支援(児童館、保育施設の充実)
- 福祉施設、制度の充実(グループホーム、在宅サービス)

○交通

- 高速インターを生かしたまちおこし（無料化）
- インター付近への住宅団地展開
- 富良野方面の交通量が増大し、交通安全対策が必要(街路樹の剪定等)
- 交通不便の解消(市内循環バスの充実等)
- 交通量の増加をまちづくりに活用(通過客を取り込む工夫)

○地域、観光

- まちの緑、自然をアピール(クラインガルテン等)
- 観光施設のネットワークづくり(スタンプラリー、共通パス等)

- ・ 市民自らによる、観光売り込み戦略
- ・ 地域の資源・宝ものの発掘とPR（花によるまちづくり等）
- ・ 三笠全体を歴史博物館とする(炭鉱遺産、鉄道、歴史の継承) ジオパーク構想の推進
- ・ 景観に配慮した施設展開(サンファームエリア、達布地区)
- ・ 住民力の増大(行政に頼らない)
- ・ ヌッパの沢のホテルを大切に育む
- ・ 緑が多く、まちの景観もよいが、廃屋等の整理が必要
- ・ まちの個性、主要産業が見えてこない(代名詞的な特産品、名所等)
- ・ 自然発生的な取組は、長期間持続可能である
- ・ 目玉イベントの開催
- ・ 新たな食文化の創造と他地域食材とのコラボレーション

5 将来都市イメージ

「第8次三笠市総合計画」では、**将来の都市像の実現に向け、市政における各分野のバランスがとれた施策を展開するため、まちづくりの姿勢を「誇り」と「挑戦」とし、次の6つのまちづくりの基本目標を定めています。**

- 人が育つまち三笠
- 人が元気で働けるまち三笠
- 人が快適に生活を楽しむまち三笠
- 人が安心して暮らせるまち三笠
- 人と自然が共存できるまち三笠
- 人が未来に向かって夢を育めるまち三笠

三笠市都市計画マスタープランは、これら6つのまちづくりの基本目標におき、前記の市民の声も参考にしながら、将来都市イメージを次のとおり定めます。

(1) 超高齢社会に誰もが安心して暮らすことのできるまとまりのある都市

安心、安全、便利は暮らしやすい生活の基本です。すでに超高齢社会となっている本市においては、冬期間の除雪問題や交通不便、買い物不便などは生活の不安要素となります。各地域それぞれの特性に配慮しながら、集落の集約化を図りつつ、まとまりのある市街地の形成を図るとともに、さまざまな不便を解消し誰もが住みやすい都市をめざします。

(2) 恵まれた自然環境を大切にする「クリーン・グリーン三笠」にふさわしい都市

本市の86%は森林です。まちの中にも公園や街路樹などみどりがふんだんにあります。豊かな森林から水資源にも恵まれており、自然豊かな美しい環境から平成12年に市のキャッチフレーズを「クリーン・グリーン三笠」と決めました。地球温暖化やオゾン層の破壊、環境ホルモンなど地球規模で環境問題が惹起していますが、リサ

イクルの推進とともに自然にやさしい、自然と共生する都市づくりを進め、自然環境と調和した美しい都市をめざします。

(3) みんなが都市づくりに参加する個性あふれる都市

市民、団体、企業、行政が協働で都市づくりを進め、歴史や風土に培われた「地域の宝物」や文化を大切に「他のまちとは違う個性」を主張する都市をめざします。

6 計画の体系

第8次三笠市総合計画将来都市像

(三笠市都市計画マスタープラン将来都市像)

